

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------------------|--|--|---|------|----|--------|----|------|------|----------------------|---|-----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 埼玉コンピュータ&医療事務専門学校 | 昭和59年3月31日 | 前川 一也 | 〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町1450番3 (電話) 048-642-0020 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人 実学舎 | 昭和58年10月11日 | 永嶋 龍次 | 〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町1450番3 (電話) 048-642-0020 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工業 | 工業専門課程 | 情報テクノロジー科 | 平成22年文部科学大臣 告示第153号 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 情報テクノロジー科の学生が主に就職するIT企業において必要な実践的かつ専門的な能力は、「プログラミング能力」と「システム作成時におけるチームワーク」である。本科ではこれらの能力を身につけることを目的としている。具体的にはプログラミング技術の修得に指導の重点をおくこと、チームワークを養うため、グループでシステムを開発させていることなどである。また、技術を身につけた証明として、企業等が推奨する資格の取得にも力を入れている。さらに必要に応じて企業等と連携して最新で実践的な実習を行うことをしている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成27年2月17日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 昼間 | 1800時間 | 1110時間 | | 690時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 140人 | 230人 | 3人 | 5人 | 5人 | 10人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日 | 成績評価 | | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験及び平常の成績によって行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日～4月6日 ■夏季:7月19日～8月31日 ■冬季:12月27日～1月3日 ■学年末:2月20日～3月31日 | 卒業・進級条件 | | 試験及び平常の成績によって行う。試験は学期末試験および卒業試験とし、試験の成績は100点満点30点以上を合格とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制:無 ■個別相談・指導等の対応 学年担任による個別面談等を通し、生徒一人ひとりの学習状況を把握しながらの授業に努めている。 | 課外活動 | | ■課外活動の種類 ■サークル活動: ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者にに関する令和4年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 情報システム開発企業、一般企業の情報システム部門等 | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報処理技術者試験 基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 資格・検定名 | 種別 | 受験者数 | 合格者数 | 情報処理技術者試験 基本情報技術者 | ③ | 17人 | 8人 | | | | | | | | | | | | |
| | 資格・検定名 | 種別 | | | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 情報処理技術者試験 基本情報技術者 | ③ | 17人 | 8人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■就職指導内容 学年担任と就職指導を担当するキャリア支援センターの教員とが連携し、履歴書、筆記試験、面接等の対策について個別に指導する。 | | ■卒業生数 : 67 人 | | ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■就職希望者数 : 59 人 | | ■就職者数 : 52 人 | | ■自由記述欄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■就職率 : 88.1 % | | ■卒業者に占める就職者の割合 : 77.6 % | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■その他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (令和3年度卒業者にに関する令和4年3月31日時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 19 名 | | ■中退率 9.4 % | | 令和3年4月1日時点において、在学者202名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者183名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 学費等免除の諸制度:1年次学費のうち、5～46万円の各種免除制度あり、例えばAO入学で評定平均3.5以上の場合、25万円免除。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | https://www.saitama-cmcc.ac.jp/2022/subject.it/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---|--|----------------------------|----|
| 1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係 | | | |
| (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 | | | |
| 学生の就職先の業界において必要とされる技術・技能及び人材像の動向、国又は地域の産業振興の方向性、新産業成長に伴い新たに必要とされる知識・技術・技能を、企業等にアンケートや聞き取り調査を行い、これらの分析結果と、本校ですでに実施している年度反省会議、前期反省会議、教科会議、職員会議の内容とあわせて「教育課程編成委員会」にて検討し意見を伺い、この結果を本校にて12月に次年度教育課程編成審議会で審議し、本校の教育課程(授業科目、授業内容、方法の改善、工夫)に反映することを基本方針とする。 | | | |
| (2)教育課程編成委員会等の位置付け | | | |
| 本校の教育課程の編成は、年度反省会議、教科会議、職員会議、前期反省会議の結果に基づき、次年度教育課程編成審議会で審議し行っている。教育課程編成委員会は年度反省会議、教科会議、職員会議、前期反省会議の内容と、企業等におけるアンケートや聞き取り調査の報告書を基に年2回実施し、その意見を次年度教育課程編成審議会で反映する。 | | | |
| (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 | | | |
| 令和4年7月31日現在 | | | |
| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
| 森雅子 | さいたま商工会議所 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | ① |
| 鈴木良雄 | 公益社団法人 埼玉県情報サービス産業協会 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | ① |
| 斉藤等 | 株式会社 アイネット | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | ③ |
| 榎谷都由 | イシイ株式会社 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | ③ |
| 小林均 | 株式会社 太洋社印刷所 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | ③ |
| 石井真吾 | 株式会社 ソフトス | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | ③ |
| 関隆司 | 医療法人明浩会 西大宮病院 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | ③ |
| 永嶋龍次 | 埼玉コンピュータ&医療事務専門学校 理事長 | | |
| 坂本健司 | 埼玉コンピュータ&医療事務専門学校 副理事長 | | |
| 前川一也 | 埼玉コンピュータ&医療事務専門学校 校長 | | |
| 高野庸夫 | 埼玉コンピュータ&医療事務専門学校 副校長 | | |
| 深野敦史 | 埼玉コンピュータ&医療事務専門学校 教務部長 | | |
| 大木健一 | 埼玉コンピュータ&医療事務専門学校 教務部長代理 | | |
| 杉浦真一 | 埼玉コンピュータ&医療事務専門学校 総務課長 | | |
| ※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員 | | | |
| (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 | | | |
| 毎年8月と12月の2回開催 (開催日時) 令和3年度第1回 令和3年8月31日 16:50～17:35 令和3年度第2回 令和3年12月17日 16:00～16:45 | | | |
| (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 | | | |
| ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 業界団体委員や企業等委員からの「自ら考える力をつけ個性を伸ばす教育をしてほしい」という提言を受け、授業中に自ら深く思索するための時間を設けたり、自分で学習計画を立てさせたりするような工夫をした。また今後は、企業の業務や就職活動がオンライン化していることに対応するため、グループウェアを積極的に活用してオンラインの経験を積ませるような授業を行っていきたい。 | | | |
| 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係 | | | |
| (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 | | | |
| 教育課程編成委員会の提言を受けて、学生の就職先の業界において必要とされる技術・技能や人材像の動向、国又は地域の産業振興の方向性、新産業成長に伴い新たに必要とされる知識・技術・技能を、企業等と組織的な連携を通じて、その業界から派遣された職員が講師になり、あるいは学生が企業等で実習を受けるなりして、実践的かつ専門的な職業教育を受ける体制を構築することを基本方針とする。また、本校で定めた評価方法に基づき、企業等と評価方法を定め、企業等の担当講師が評価を行い、担当講師もしくは本校が単位を認定する。 | | | |
| (2)実習・演習等における企業等との連携内容 | | | |
| 専攻分野に関する職業に必要となる実践的かつ専門的な能力を育成する目的で、企業等から講師の派遣を依頼する場合や、学生が企業等で実習を受ける場合、教育課程編成委員会の提言と本校の検討を十分生かした内容を踏まえつつ、実習・演習等の内容、期間、評価方法、料金等の事項を企業等と打ち合わせ協定書等を結ぶ。また、企業等から派遣された講師と本校担当教員が、実習・演習等の状況や学生の状況について適時打ち合わせを行い、必要に応じて適切な対応をとる。校外においての企業等の実習においてと同様とする。実習・演習等が終了後、派遣講師が事前に定めた評価を行う。評価結果に基づき学校または派遣講師が単位認定を行う。今回実施した実習・演習等の内容を年度反省会議にて検討し、今後の企業等と連携する実習・演習等に反映する。 | | | |
| (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。 | | | |
| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 | |
| IT応用 | EコマースにおけるIT活用とパソコン作業自動化(PPA実習)。EC運営効率化のためにICTの活用がイメージ出来るようになることを目標とする。 | 株式会社 ミナルキ | |

| 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------------|-------------|------------|--|---------|--|---------|--|---------|---|---------|--|---------|---|-------------|---|
| (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 最新の知識・技術・技能の習得、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上、その他、教員の資質向上のため、教員の業務経験や能力、担当科目、授業以外の担当業務等に応じて、専攻分野における実務に関する研修、指導力の修得・向上のための研修を企業等と連携して行うことを研修規程に定めている。また、研修を受けた教員は、必要に応じて他の教員への研修報告を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)研修等の実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「情報系教員向け AI・機械学習セミナー(オンライン研修)」(連携企業等:株式会社インフォテックサーブ) 期間:令和3年8月2日(月) 対象:教務課長 内容:機械学習の基本ワークフローを理解し、予測精度の高い深層学習モデルを構築する技法を学んだ。今後、授業の中でも、ここで得た知識を積極的に活用する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「発達障害、自閉症・ADHD、発達障害と睡眠障害についての講演(オンライン研修)」(連携企業等:日本学校心理学会) 期間:令和3年11月3日(水) 対象:専任教員 内容:授業中、集中力が散漫になる一要因として睡眠障害がある。発達障害の一つと位置付けられている。睡眠障害の傾向を強める因子として、「人間関係教育の欠如」「メディア視聴(TV、ネット、スマホ)の多さ」「遊びの変化」「睡眠環境の変化」などがある。「眠い-サボっている」と考えず、因子を理解して指導力の向上に活かす。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3)研修等の計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「Machine Learning Foundations(オンライン研修)」(連携企業等:アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社) 期間:令和4年8月1日(月)～2日(火) 対象:教務部長 内容:AWSのサービスを活用した機械学習・ディープラーニングの研修。画像認識、自然言語の自動翻訳、チャットボット、SageMakerの使い方などについて学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「専門学校入学生への「基礎学力」の実態と指導のポイント(オンライン研修)」(連携企業等:株式会社進研アド) 期間:令和4年7月20日(水) 対象:学科主任 内容:第1部:「数字にみる低学力者の実態」第2部:「基礎学力の低い学生へのアプローチの仕方」とは」第3部:「進研アドからご支援できること」基礎学力の低い学生に対していかにして専門の技術を身に付けさせるかを学び授業にいかす。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)学校関係者評価の基本方針 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 「専修学校における学校評価ガイドライン(平成25年3月文部科学省策定)」を踏まえつつ、学校自らが行った「自己点検・評価」の結果を、企業等の役員又は職員その他必要な委員(保護者、卒業生等)により組織される学校関係者評価委員会において評価し、それをすべての教職員が参加する「次年度教育課程編成審議会」「年度反省会議」で検討し、次年度の教育活動その他学校運営に活用することを基本方針とする。また、「自己点検・評価」及び「学校関係者評価委員会」の結果は、本校ホームページにて公表する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td>1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色はなにか 1-3学校の将来構想を抱いているか</td> </tr> <tr> <td>(2)学校運営</td> <td>2-4運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか 2-6運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-7人事や賞金での処遇に関する制度は整備されているか 2-8意思決定システムは確立されているか 2-9情報システム化等による業務の効率化が図られているか</td> </tr> <tr> <td>(3)教育活動</td> <td>3-10各教科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか 3-11各学科の教育目標、育成人材像を構築する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか 3-12カリキュラムは体系的に編成されているか 3-13学科の各教科は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか 3-14授業評価の実施・評価体制はあるか 3-15育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-16成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-17資格取得の指導体制はあるか</td> </tr> <tr> <td>(4)学修成果</td> <td>4-18就職率(卒業生就職率・求職者就職率。専門就職率)の向上が図られているか 4-19資格取得率の向上が図られているか 4-20退学率の低減が図られているか 4-21卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</td> </tr> <tr> <td>(5)学生支援</td> <td>5-22就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-23学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-24学生の経済的側面に対する支援が全面的に整備され、有効に機能しているか 5-25学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか 5-26課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか 5-27学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-28保護者と適切に連携しているか 5-29卒業生への支援体制はあるか</td> </tr> <tr> <td>(6)教育環境</td> <td>6-30施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備できているか 6-31学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-32防災に対する体制は整備されているか</td> </tr> <tr> <td>(7)学生の受入れ募集</td> <td>7-33学生募集活動は、適正に行われているか 7-34学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 7-35入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 7-36学納金は妥当なものとなっているか</td> </tr> </tbody> </table> | ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 | (1)教育理念・目標 | 1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色はなにか 1-3学校の将来構想を抱いているか | (2)学校運営 | 2-4運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか 2-6運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-7人事や賞金での処遇に関する制度は整備されているか 2-8意思決定システムは確立されているか 2-9情報システム化等による業務の効率化が図られているか | (3)教育活動 | 3-10各教科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか 3-11各学科の教育目標、育成人材像を構築する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか 3-12カリキュラムは体系的に編成されているか 3-13学科の各教科は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか 3-14授業評価の実施・評価体制はあるか 3-15育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-16成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-17資格取得の指導体制はあるか | (4)学修成果 | 4-18就職率(卒業生就職率・求職者就職率。専門就職率)の向上が図られているか 4-19資格取得率の向上が図られているか 4-20退学率の低減が図られているか 4-21卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | (5)学生支援 | 5-22就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-23学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-24学生の経済的側面に対する支援が全面的に整備され、有効に機能しているか 5-25学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか 5-26課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか 5-27学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-28保護者と適切に連携しているか 5-29卒業生への支援体制はあるか | (6)教育環境 | 6-30施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備できているか 6-31学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-32防災に対する体制は整備されているか | (7)学生の受入れ募集 | 7-33学生募集活動は、適正に行われているか 7-34学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 7-35入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 7-36学納金は妥当なものとなっているか |
| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)教育理念・目標 | 1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色はなにか 1-3学校の将来構想を抱いているか | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)学校運営 | 2-4運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか 2-6運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-7人事や賞金での処遇に関する制度は整備されているか 2-8意思決定システムは確立されているか 2-9情報システム化等による業務の効率化が図られているか | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3)教育活動 | 3-10各教科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか 3-11各学科の教育目標、育成人材像を構築する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか 3-12カリキュラムは体系的に編成されているか 3-13学科の各教科は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか 3-14授業評価の実施・評価体制はあるか 3-15育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-16成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-17資格取得の指導体制はあるか | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (4)学修成果 | 4-18就職率(卒業生就職率・求職者就職率。専門就職率)の向上が図られているか 4-19資格取得率の向上が図られているか 4-20退学率の低減が図られているか 4-21卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (5)学生支援 | 5-22就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-23学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか 5-24学生の経済的側面に対する支援が全面的に整備され、有効に機能しているか 5-25学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか 5-26課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか 5-27学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-28保護者と適切に連携しているか 5-29卒業生への支援体制はあるか | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (6)教育環境 | 6-30施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備できているか 6-31学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-32防災に対する体制は整備されているか | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (7)学生の受入れ募集 | 7-33学生募集活動は、適正に行われているか 7-34学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 7-35入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 7-36学納金は妥当なものとなっているか | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---------------|--|
| (8)財務 | 8-37中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-38予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-39財務について会計監査が適正におこなわれているか 8-40財務情報公開の体制整備はできているか |
| (9)法令等の遵守 | 9-41法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-42個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 9-43自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-44自己点検・自己評価結果を公開しているか |
| (10)社会貢献・地域貢献 | 10-45学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-46学生のボランティア活動を奨励、支援しているか |
| (11)国際交流 | 特に定めていない |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員より「災害が多く発生しており、防災に対する体制の強化や近辺の情報収集が必要である。」との意見を受け、本校近隣及び通学経路の防災関連施設とハザードマップに基づく危険区域を把握し、職員会議において情報共有を行った。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

| 令和4年7月31日現在 | | | |
|-------------|---------------|----------------------------|-------|
| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
| 長谷川清司 | 元高等学校校長 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | 教育関係者 |
| 斉藤等 | 株式会社アイネット | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 榎谷都由 | イシイ株式会社 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 小林均 | 株式会社大洋社印刷所 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 石井真吾 | 株式会社ソフタス | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 関隆司 | 医療法人明浩会 西大宮病院 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 高木静江 | 保護者 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | 保護者 |
| 高野和美 | 保護者 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | 保護者 |
| 小河原昌希 | 卒業生 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | 卒業生 |
| 田村聖奈 | 卒業生 | 令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年) | 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(令和3年9月24日 本校ホームページにて公表)

<https://www.saitama-cmcc.ac.jp/pdf/2020/evaluation20210924.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本校の専門課程全般について理解を深めるとともに、企業等との関係者との連携及び協力の推進に資するため「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」を踏まえつつ、本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報をホームページや印刷物にて提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|--|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 1-1学校の教育・人材育成の目標、特色 1-2校長名、所在地、連絡等 1-3学校の沿革、歴史 |
| (2)各学科等の教育 | 2-4入学定員及び在学学生数 2-5各学科の特徴 2-6各学科の目標資格と取得率 2-7各学科のめざす職業 2-8各学科の時間割 |
| (3)教職員 | 3-9各学科の教職員の紹介 3-10特徴ある教員の紹介 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | 4-11キャリア教育の内容 4-12就職率 4-13主な就職先 4-14実践的職業教育の内容 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 5-15施設・設備 5-16課外活動のこと |
| (6)学生の生活支援 | 6-17学生への経済面での支援 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 7-18学費 7-19学費以外の費用 7-20学費免除制度 7-21学費以外の経済的支援制度 |
| (8)学校の財務 | 8-22財務状況 |
| (9)学校評価 | 9-23自己点検・評価の結果 9-24学校関係者評価の結果 |
| (10)国際連携の状況 | 特になし |

| | |
|---|------|
| (11)その他 | 特になし |
| ※(10)及び(11)については任意記載。 | |
| (3)情報提供方法 | |
| https://www.saitama-cmcc.ac.jp/ | |

授業科目等の概要

| (工業専門課程情報テクノロジー科) 令和4年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------|------|--------------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | コンピュータシステム | ソフトウェアとハードウェアを中心にコンピュータの仕組みについて学びます。目標資格は、国家資格の「基本情報技術者試験」または「ITパスポート試験」です。 | 1通 | 120 | 8 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | コンピュータテクノロジー | データベース、ネットワーク、セキュリティ、システム開発技術について学びます。目標資格は、国家資格の「基本情報技術者試験」または「ITパスポート試験」です。 | 1通 | 120 | 8 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | ITマネジメント | システムを開発する際に、人やもの、進捗を管理する手法を学びます。さらに、顧客の要求に応じたITサービスを提供する管理技能を学びます。 | 1通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | ITストラテジ | システム戦略、経営戦略、企業と法務について学びます。目標資格は、国家資格の「基本情報技術者試験」または「ITパスポート試験」です。 | 1通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | アルゴリズム/データ構造 | 各種アルゴリズム（整列・探索・文字列操作等）、各種データ構造（リスト・スタック等）について習得します。 | 1通 | 90 | 6 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | IT基礎 | C言語について、一通りの文法を学びます。C言語の目標資格は、「C言語プログラミング能力認定試験（サーティファイ）」の2級と3級です。 | 1通 | 120 | 8 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | IT基礎実習 | IT基礎で学んだC言語を用いて、文字列検索など、さまざまなプログラムを作成します。 | 1通 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | 情報リテラシー実習 | Windowsの基本操作を習得後、Wordの基本を習得し応用文書を作成します。また、Excelの基本を習得しワークシートを作成をします。 | 1通 | 60 | 2 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | | 情報関連基礎 | WordやExcelの高度な機能や操作を習得します。 | 1通 | 60 | 4 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| ○ | | | 資格対策 | LinuxOSの使用方法を学習した上で、Linux上で動作するJavaScriptやPHP、Python等の開発手法を習得します。LPI-Japanの「LinuC」等の取得をめざします。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | 情報システム演習 | オラクル社認定試験の「OCJ-P」対策、JavaScriptとJava言語の演習、ホームページ制作演習のいずれかを選択します。 | 2通 | 120 | 4 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | |
| ○ | | | IT応用 | RPA (Robotic Process Automation) ツールの使い方を学習し、企業のオフィス内の事務作業や定型業務などを効率化する手法を学びます。 | 2後 | 30 | 2 | △ | △ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | | プレゼンテーション | 技術者としての企画作成と、効果的なプレゼンテーション能力を養います。グループまたは個人でPowerPoint資料を作成し発表します。 | 2通 | 60 | 4 | △ | | | ○ | ○ | | ○ | |
| | ○ | | システム開発I | Java言語について、オラクル社の資格「OJC-P」の取得に必要なレベルに合わせ、一通りの文法を学びます。その後、Servlet/JSPの基本を習得します。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | | ○ | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------|---|----|-----|---|---|--|---|---|---|--|--|---|--|
| ○ | システム開発 I 実習 | システム開発 I で学んだ知識に基づき、課題のシステムを開発します。システム設計からプログラミング、テスト工程までを一通り習得します。 | 2通 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| ○ | システム開発 II | 前期：VisualBasicを学習し演習を行います。 後期：C#を用いてシステム開発演習を行います。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | △ | ○ | ○ | | | | |
| ○ | システム開発 II 実習 | オラクル社が提供するカリキュラムに従い、SQLの基礎やデータベース管理手法を学び「Oracle Master Bronze」資格取得をめざします。 | 2通 | 120 | 4 | △ | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | アプリケーションプログラミング I | VisualBasicを用いてシステム開発演習を行います。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | △ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | アプリケーションプログラミング I 実習 | 目標資格は「Microsoft Office Specialist 試験エキスパート」の Word と Excel です。合格のために必要な基本的な考え方と操作方法を習得します。 | 2通 | 120 | 4 | △ | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | アプリケーションプログラミング II | 目標資格は、パソコン整備士協会で実施している「パソコン整備士検定」です。授業内容は、PCハードウェア・ネットワーク・セキュリティ・情報倫理です。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | アプリケーションプログラミング II 実習 | Java言語について、一通りの文法を学び、課題のプログラムを作成します。目標資格は、「Java言語プログラミング能力認定試験（サーティファイ）」の3級です。 | 2通 | 120 | 4 | △ | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | Webプログラミング I | Java言語について、オラクル社の資格「OJC-P」の取得に必要なレベルに合わせ、文法を習得します。その後、Servlet/JSPの基本を学びます。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | | ○ | | | | | |
| ○ | Webプログラミング I 実習 | Webプログラミング I の知識に基づき、Web上で動くデータの登録・検索・修正を行うシステムを開発します。システム設計、プログラミング、テスト工程を習得します。 | 2通 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | | | | | |
| ○ | Webプログラミング II | 前期：VisualBasicを学習し演習を行います。 後期：C#を用いてシステム開発演習を行います。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | △ | ○ | | | | | |
| ○ | Webプログラミング II 実習 | HTML5 について学び、アプリケーション開発技術を習得します。 | 2通 | 120 | 4 | △ | | ○ | ○ | | | | | |
| ○ | パソコン理論 I | ビジネス文書に関する知識の習得と実習を行います。目標資格は、「ビジネス文書検定3級」です。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | △ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | パソコン理論 I 実習 | 目標資格は、「Microsoft Office Specialist 試験エキスパート」の Word と Excel です。合格のため必要な基本的な考え方と操作方法を学びます。 | 2通 | 120 | 4 | △ | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | パソコン理論 II | 目標資格は、パソコン整備士協会で実施している「パソコン整備士検定」です。授業内容は、PCハードウェア・ネットワーク・セキュリティ・情報倫理です。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | パソコン理論 II 実習 | AutoCADを使った2次元機械製図と、3DCAD (3次元CAD) の基本操作を習得をします。 | 2通 | 120 | 4 | △ | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | ゲーム・プログラミング I | ゲームエンジンを用いてオリジナルなゲームを制作します。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | △ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | ゲーム・プログラミング I 実習 | Windows、スマホ、家庭用ゲーム機のオリジナルゲームを制作します。 | 2通 | 120 | 4 | △ | | ○ | ○ | | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|---|----|-----|---|---|---|---|---|--|---|---|--|
| ○ | ゲーム・プログラミングⅡ | 前期：VisualBasicを学習し演習を行います。 後期：C#を用いてシステム開発演習を行います。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | |
| ○ | ゲーム・プログラミングⅡ 実習 | モデリングやアニメーションなどゲームに関するCGを学びます。 | 2通 | 120 | 4 | △ | ○ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | ネットワーク基礎 | シスコシステムズ社が提供するシスコネットワークアカデミーカリキュラムに従いLAN、WANの技術、ルータ・スイッチの設定を学びます。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | △ | ○ | | | | | |
| ○ | ネットワーク応用 | 「ネットワーク基礎」の授業とあわせて、ネットワークの技術を学習し、「CCNA」資格取得をめざします。 | 2通 | 120 | 4 | △ | ○ | ○ | | | | | |
| ○ | 情報セキュリティ | 目標資格は、CompTIA「Server+/Security+」です。授業内容は、サーバのハードウェアの概要・ネットワーク・Webサーバのセキュリティ・サーバの運用です。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | ○ | | | | | |
| ○ | データベース | オラクル社が提供するカリキュラムに従い、SQLの基礎やデータベース管理手法を学習し、「Oracle Master Bronzes」資格取得をめざします。 | 2通 | 120 | 4 | △ | ○ | ○ | | | | | |
| ○ | コンピュータ制御Ⅰ | コンピュータを制御するために必要なC言語やアセンブラ言語について学習する。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | ○ | | | | | |
| ○ | コンピュータ制御Ⅰ実習 | 組込み系CPUを用いて、コンピュータの制御方法を学び実習を行う。 | 2通 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | | | | |
| ○ | コンピュータ制御Ⅱ | モーターやロボットを制御する仕組みを学習する。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | ○ | | | | | |
| ○ | コンピュータ制御Ⅱ実習 | パソコンを用いて、モーターやロボットを制御する実習を行う。 | 2通 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | | | | |
| ○ | スマホ活用開発Ⅰ | Java言語について、オラクル社の資格「OJC-P」の取得に必要なレベルに合わせ、文法を習得します | 2通 | 120 | 8 | ○ | | ○ | | | | | |
| ○ | スマホ活用開発Ⅰ実習 | スマホで用いられているAndroidアプリの開発手法を学習し、設計、プログラミング、テスト工程を一通り習得します。「Android技術者試験」取得を目標とします。 | 2通 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | | | | |
| ○ | スマホ活用開発Ⅱ | 前期：VisualBasicを学習し演習を行います。 後期：C#を用いてシステム開発演習を行います。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | △ | ○ | | | | | |
| ○ | スマホ活用開発Ⅱ実習 | HTML5について学習し、アプリケーション開発技術を習得します。 | 2通 | 120 | 4 | △ | ○ | ○ | | | | | |
| ○ | サイバーセキュリティⅠ | シスコシステムズ社が提供するシスコネットワークアカデミーカリキュラムに従いLAN、WANの技術やルータ・スイッチの設定を学びます。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | △ | ○ | | | ○ | | |
| ○ | サイバーセキュリティⅠ実習 | シスコシステムズ社が提供するシスコネットワークアカデミーカリキュラムに従いVLANなどのさまざまなネットワークの技術を学び、「CCNA」取得をめざします。 | 2通 | 120 | 4 | △ | ○ | ○ | | | ○ | | |
| ○ | サイバーセキュリティⅡ | 実際にサーバやネットワークを構築し、攻撃手法や防御方法について実習を行います。 | 2通 | 120 | 8 | ○ | | ○ | | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------------------|--|--------|-----|--------------------|---|---|---|---|--|--|--|--|
| ○ | サイバーセキュリティⅡ 実習 | オラクル社が提供するカリキュラムに従い、SQLの基礎やデータベース管理手法を学習し、「Oracle Master Blonzes」資格取得をめざします。 | 2 通 | 120 | 4 | △ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| ○ | AIエンジニア Ⅰ | 人工知能（以下AI）の基礎を学び、機械学習やディープラーニングの様々な手法や、データの分析に必要な回帰分析などの知識を学びます。ディープラーニングG検定（ジェネラリスト）の合格をめざします。 | 2 通 | 120 | 8 | ○ | △ | ○ | | | | | |
| ○ | AIエンジニア Ⅰ実習 | Python言語の文法を学び、機械学習やディープラーニングに必要なさまざまなアルゴリズムを活用してAIプログラムを作成します。 | 2 通 | 120 | 4 | △ | ○ | ○ | | | | | |
| ○ | AIエンジニア Ⅱ | アマゾンウェブサービス（AWS）が提供する「AWSAcademy」の学習カリキュラムを用いて、最新のクラウドコンピューティングの基礎から応用まで実践的なラボ演習を通して学習し、AI活用に必要なクラウド技術を習得し | 2 通 | 120 | 8 | ○ | △ | ○ | | | | | |
| ○ | AIエンジニア Ⅱ実習 | オラクル社が提供するカリキュラムに従い、SQLの基礎やデータベース管理手法を学び、AIが解析するビッグデータの取扱い手法を習得します。 | 2 通 | 120 | 4 | △ | ○ | ○ | | | | | |
| ○ | キャリアデザイン | キャリアデザインを概観することで自己内省を行い、それを元に履歴書を完成し、面接対策を行う。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | ○ | ○ | | | | |
| ○ | キャリアデザイン | 企業研究、キャリアパスをデザインすることを学ぶ。 | 2 前 | 30 | 2 | ○ | | ○ | ○ | | | | |
| ○ | HR（キャリア指導含む） | 前期はビジネスマナーを習得し、後期は就活に関する対策（一般常識・作文・コミュニケーションスキル）を行う。目標資格は、ビジネス実務マナー検定。 | 1 通 | 60 | 4 | ○ | | ○ | ○ | | | | |
| ○ | HR（キャリア指導含む） | 就職活動に役に立つように、企業分析、自己分析、就活方法、履歴書、面接、適性、一般常識に関して学ぶ。 | 2 通 | 60 | 4 | ○ | | ○ | ○ | | | | |
| 合計 | | | 5 1 科目 | | 1 8 0 0 単位時間 (単位) | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|-----------|-------|--|
| 評価・成績が全科目30点以上であり、卒業判定会議において卒業が認められた者。 | 1 学年の学期区分 | 2 期 | |
| | 1 学期の授業期間 | 週 | |